

2 調査結果の分析

【小学校】

○悉皆調査前回（平成21年度）・前々回（平成20年度）からの、無解答率の経年変化を見ると、小学校は無解答率は減少し、全国との差も大幅に狭まっている。これは、学校での「わかる授業」の実践、諦めずに粘り強く取り組む指導、さらには平成21年度に指摘されていた「対外的な問題形式に慣れていない」ことへの取り組みの効果等により、時間が足りずに終わる児童が減少している表れだと考えられる。

無解答率

小・国語A	平成20年度	平成21年度	平成25年度
寒川町 (全国との差)	20.1 (9.2)	18.1 (8.2)	14.9 (4.2)
全国	10.9	9.9	10.7

小・国語B	平成20年度	平成21年度	平成25年度
寒川町 (全国との差)	24.1 (11.8)	22.3 (10.2)	18.9 (5.3)
全国	12.3	12.1	13.6

小・算数A	平成20年度	平成21年度	平成25年度
寒川町 (全国との差)	7.1 (4.1)	4.7 (2.6)	2.0 (0.3)
全国	3.0	2.1	1.7

小・算数B	平成20年度	平成21年度	平成25年度
寒川町 (全国との差)	13.1 (7.1)	12.1 (5.9)	8.8 (2.5)
全国	6.0	6.2	6.3

【小学校国語A 課題と考えられる問題】

①② 漢字を読む 漢字を書く

- 1一 (2)「子孫」 正答率72.5% (全国と7P差)、短答式
(3)「採集」 正答率44.3% (全国と21P差)、短答式
- 1二 (1)「焼く」 正答率61.7% (全国と11P差)、短答式
(2)「停車」 正答率24.1% (全国と23P差)、短答式
(3)「設ける」 正答率40.1% (全国と13P差)、無解答率37.4%、短答式

漢字を読んだり書いたりする機会を増やし、語彙力を高める指導が必要である。また、習得した漢字の音訓、部首、点画などに、間違いがないかどうかを日常的に確認することが必要である。

③ ことわざの意味

- 2一 「石の上にも三年」 正答率64.0% (全国と7P差)、選択式

ことわざの意味や使い方を正しく理解し、自分の表現に用いることができるようにする指導が必要である。

④ 文の定義を理解し、はじめの5文字を丸で囲む

- 3一 「、」も含めて文のはじめの5文字を丸で囲む
正答率28.9% (全国と8P差)、無解答率28.9%、短答式

文が句点によって区切られることの理解が不十分である。下の学年で習得しておくべき基礎的・基本的な知識の定着へ向けて、日常的な指導が必要である。

⑤ 目的に応じて資料を読み、分かったことを的確に書く 短答式・記述式

- 4ア 資料を読み取り分かることを書く 正答率61.7% (全国と11P差)
4イ 資料を読み取り分かることを書く 正答率60.1% (全国と11P差)
4ウ 資料を読み取り全体から分かることを書く
正答率30.5% (全国と14P差)、無解答率32.1%

目的に応じて図や表、グラフなどの資料を読み、分かったことを的確に書くことが重要である。そのためには、資料に表された情報を正しく読み取ったり、必要な情報を取り出し、的確に記述したりすることができるように指導することが大切である。

⑥ 広告を読み、編集の特徴を捉える

- 5イ 正答率64.4% (全国と7P差)、選択式

広告のほか、新聞や雑誌、情報誌など、日常生活における様々なメディアの情報を正しく捉えるためには、それらの情報の内容や形式の両面に注目し、編集の特徴を捉えることができるように指導することが大切である。

⑦ 表現の工夫とその効果を説明したものとして適切なものを選択する

7 スピーチの表現を工夫する 正答率 33.3% (全国と10P差)、選択式

スピーチの表現を工夫することに課題がある。目的や意図に応じ、自分の考えが明確に伝わるようにスピーチの構成や表現を工夫することが大切である。

【小学校国語A 平成21年度に課題としてあげられていた問題について】

○ローマ字の規則性を着実に押さえさせると共に、様々な学習や生活の中でローマ字を使う機会を増やしていく必要がある→**出題されず**

○接続語を使って一文を二分に分けて書く→**正答率は上がったが、引き続き指導が必要**

・平成21年度…正答率7.9% (全国と7P差)、無解答率32.7%、短答式

・平成25年度…正答率18.6% (全国と5P差)、無解答率13.3%、短答式

【小学校国語B 課題と考えられる問題】

① 相手の立場や状況を感じ取って聞く。

1一 助言の際に6年生がとった対応の説明として適切なものを選択する

正答率69.0% (全国と10P差)、選択式

会話の様子から、相手の立場や状況を感じ取って聞くことができるために、共感的な態度で相手の話を聞く場面を増やしたり、表情や態度、場の雰囲気づくりなどの非言語の効果について考えるたりすることができるように指導することが大切である。

② 目的や意図に応じ、必要な内容を適切に書く。

2一 見出しに合わせて必要な内容を書き加える 正答率53.1% (全国と11P差)、短答式

2二 具体的に書かれている内容を引用して書く 正答率17.5% (全国と9P差)、短答式

自分の考えが伝わるように、目的や意図に応じて、必要な内容を適切に書き加えたり、具体的な事実などを引用して書いたりすることができるように、書くことと読むこととの関連を図りながら指導することが重要である。

③ 2人の推薦文を比べて読み、推薦している対象や理由を捉える

3ア 推薦文の推薦している対象を書く 正答率38.6% (全国と11P差)、短答式

3イ 推薦文の推薦している理由を書く

正答率32.4% (全国と13P差)、無解答40.5%、短答式

3ウ 推薦文の推薦している理由を書く

正答率33.3% (全国と11P差)、無解答42.8%、短答式

2つの文章を比べて読み、文章の中で対象や理由を捉えて説明したり、構成や表現の工夫を分析したりする機会を増やし、相手によく伝わるような書き方ができるように指導することが大切である。

【小学校算数A 課題と考えられる問題】

① 計算

1 (3) 小数の乗法 9.3×0.8

正答率 76.4% (全国と7P差)、短答式

1 (7) $2/9 \times 4$

正答率 83.0% (全国と7P差)、短答式

(3) の答えの小数点の位置の誤答が 13.8% である。小数の乗法、乗数が整数である分数の乗法に限らず、計算の手続きの確実な定着を図る必要がある。

② 四捨五入

2 一万の位までの概数にしたときに 20000 になる数をすべて選ぶ

正答率 50.7% (全国と10P差)、選択式

平成 21 年度も正答率の低かった (全国と18p差) 設問である。四捨五入について知ることだけでなく、目的に応じて適切に処理する方法を理解する必要がある。引き続き定着へ向けての取り組みが必要である。

② 除数と商と余りから被除数を求める式

3 「ある数を 3 でわったら商が 9 であまりが 2」の「ある数」を求める式を選ぶ

正答率 63.1% (全国と9P差)、選択式

正答「 $3 \times 9 + 2$ 」に対して、「 $9 \div 3 - 2$ 」(17.9%) である。被除数、除数、商及び余りの間の関係を理解するために、除法とその逆算である乗法との関係、商と余りとの関係の両方を正しく理解できるように指導する必要がある。

③ 1 a (1アール) の面積と等しい正方形の一辺の長さ

5 (2) 正答率 41.1% (全国と11P差)、選択式

正答「10m」に対して、「100m」(29.6%) である。面積について単位の名称を覚えるだけでなく、具体的に単位と測定の意味を理解し、面積を計算によって求めることができるように指導する必要がある。作業的、体験的な算数的活動により、1㎡や1aの広さを実感的に捉えることが大切である。

④ 合同な三角形を書くために必要な条件

6 正答率 49.1% (全国と12P差)、選択式

正答「二角挟辺相当を選ぶ」に対して、「三つの角を選ぶ」(32.6%) である。合同な三角形をかいたり、作ったりする算数的活動を基に、どのような条件を用いれば合同な三角形がかいたり、作ったりできるかということを見いだすことができるように指導する必要がある。合同な三角形をかくことができない場合も取り上げ、条件の理解を深めることも大切である。

⑤ 円柱の展開図から長さを求める式と答え

7 (2) 側面の辺の長さを底面の円周の長さを求めて答える

正答率59.9% (全国と6P差)、短答式

立体図形を平面上に表現するための方法である見取り図や展開図に慣れ親しんだりかいたり読んだりするために、作業的、体験的な算数活動を多く取り入れ、辺・面・頂点などの構成要素についてや関係について捉えられるようにすることが大切である。

⑥ 割合

8 (1) 200cmの50%の長さ 正答率69.0% (全国と8P)

平成21年度も正答率の低かった(全国と8p差)百分率の設問である。正答「100」に対して、「150」(11.5%)、「400」(10.3%)である。割合について、規準量、比較量、割合の関係の理解ができるよう、引き続き指導が必要である。

【小学校算数A 平成21年度に課題としてあげられていた問題について】

○必要な情報を取り出して面積を求める→学習指導の効果あり

・平成21年度算数A⁶ 三角形の面積 48.3% (全国と19P差)

・平成25年度算数A⁵ (3) 台形の面積 73.2% (全国と0P差)

※今回の問題では、計算に必要な上底と下底と高さに加えて、計算に不必要な斜辺の長さも示されており、必要な情報だけを取り出す必要があるため、問題の難易度は上がっているのにも関わらず、全国正答率はあがった。寒川町全体では正答率が大幅に上がり、全国との差が0Pになった。

【小学校算数B 課題と考えられる問題】

① 安くなる買い方を選択し理由を記述

- 1 (2) 乗り物券の買い方で一番安くなる買い方を選択し理由を記述する

正答率 43.0% (全国と8P差)、記述式

「乗り放題券は何度も乗れてお得」(23.0%)。問題をしっかりと読み取り、条件を的確に把握し、条件に基づいて情報を選択できるようにすることが大切である。理由を説明する際には、筋道を立てて考えた過程について説明する対象や根拠を明らかにすることが大切であり、対象や根拠についてもれなく述べているか見直すことも大切である。

② 二つの数量の関係が比例の関係ではないことを記述 記述式

- 2 (3) ふりこの長さで10往復する時間は比例関係ではないことを数と言葉で記述する

正答率 25.7% (全国と10P差)、無解答 25.7%、記述式

無解答率が高い。表から数値を適切に取り出して、数と言葉を用いて記述することに課題がある。規準となる表の数値を設定し、根拠を明確にして対応や変化の規則性を説明する活動を充実する必要がある。

③ 台形を分割したときに、4等分にはならないわけを選択

- 3 (3) 示された分け方で台形を分けると4等分にならないわけを選択する

正答率 45.7% (全国と11P差)、選択式

一つの場面で発見した事実が、ほかの場面でも当てはまるかどうか調べる活動の充実を図る必要がある。「成り立つ・成り立たない」という結論だけでなく、その理由を説明することも大切である。

④ 単位量あたりの大きさに着目して、二つの数量の関係の求め方を記述

- 4 (1) 観客数2試合約2200人 3試合約33000人の1試合あたりの人数に着目し、何倍になっているか、求め方を式や言葉を使って書き、答えを求める。

正答率 33.8% (全国と9P差)、記述式

単位量あたりの大きさを求める場面や意味を理解できるようにする必要がある。問題を解決する際に、解決の方法の見通しを立てることは、筋道を立てて考える上で大切である。

⑤ 示された式に数値を当てはめて計算し、計算の結果の大小を基に判断する

- 4 (3) 計算式に当てはめて勝ち点を計算して求め、4チームの中での順位を書く。

正答率 43.4% (全国と7P差)、短答式

正答「 $3 \times 3 + 1 \times 0 =$ 単位量あたりの大きさを求める場面や意味を理解できるようにする必要がある。問題を解決する際に、解決の方法の見通しを立てることは、筋道を立てて考える上で大切である。

⑥ 割合が同じで基準量が増えているときの比較量の大小を判断し、理由を記述

- 5 (2) 帯グラフから割合と基準量の変化を読み取り、増減を判断し理由を書く。

正答率 33.3% (全国と11P差)、記述式

「6000円の60%と7000円の60%は変わらない」(25.3%)。算数B問題で記述式(求め方を記述、理由を記述)の5問中4問が全国より7p以上差がある。根拠となる事柄を示して、理由を説明する機会を積極的に増やしていく必要がある。

【中学校】

○悉皆調査前回（平成21年度）・前々回（平成20年度）からの、無解答率の経年変化を見ると、小学校に比べると、時間不足を感じている生徒は少ない。中学校においても無解答率は減少し、ほぼ全国平均並みと言える範囲内にまで縮まっている。これは、学校での「わかる授業」の実践をはじめとする取り組み効果の表れだと考えられる。

無解答率

中・国語A	平成20年度	平成21年度	平成25年度
寒川町 (全国との差)	5.2 (1.4)	5.2 (1.9)	3.6 (1.2)
全国	3.8	3.3	2.4

中・国語B	平成20年度	平成21年度	平成25年度
寒川町 (全国との差)	12.2 (3.6)	9.1 (3.5)	4.8 (2.0)
全国	8.6	5.6	2.8

中・数学A	平成20年度	平成21年度	平成25年度
寒川町 (全国との差)	8.7 (2.1)	7.7 (2.6)	6.0 (0.7)
全国	6.6	5.1	5.3

中・数学B	平成20年度	平成21年度	平成25年度
寒川町 (全国との差)	17.6 (4.2)	15.7 (6.0)	20.9 (4.2)
全国	13.4	9.7	16.7

【中学校国語A 課題と考えられる問題】

① 話し合いの方向を捉えて司会の役割を果たす

1二 「話し合いの方向を捉えた司会の発言として適切なものを選択」

正答率49.6% (全国と5P差)、選択式

話し合いにおいては、発言者の考えや理由が参加者に明確に伝わるのが重要である。グループや全体の話し合い活動において、司会が発言の意図を問い返したり、必要な発言を促したりするなど、状況に応じて適切な発言ができるようきめ細かい指導が必要である。

② 文章を目的に応じた表現に直し、伝えたい事柄を明確にして書く

3一 「見出しを変更した理由として適切なものを選択」

正答率50.4% (全国と8P差)、選択式

3二 「出された意見を整理して、決定の理由を書く」

正答率38.5% (全国と10P差)、短答式

報告をする文章を書く際には、目的に応じて伝える内容を適切に書くことが大切になってくる。また、書いた文章に見出しを付ける際には、文章の目的を確認し、ポイントが読み手に適切に伝わるものにする必要がある。当初は、書いた見出しの候補を複数挙げ、適するものを検討する学習活動などを試みる必要がある。

③ 漢字を書く

83 「着物に合わせてオビを選ぶ」

正答率43.5% (全国と23P差)、無解答率23.2%、短答式

「漢字の書き」は従来から課題を残している。小学校においても同様の傾向がある。漢字の組立てに着目したり、同じ漢字を用いた他の熟語を想起したりしながら、漢字についての理解を深めていくよう指導を工夫することが大切である。

④ 漢字を読む

8二2 「社会を風刺する」

正答率60.5% (全国と10P差)、短答式

「漢字の読み」は、「書き」に比べると、定着をしていると言えるが、特定の設問では、全国と比べて正答率の低いものがある。日常から定着の良くないものについて、繰り返し指導を行うようにしたい。

⑤ 言語文化等

8七1 「比喩を用いた表現の理解」

正答率44.9% (全国と8P差)、短答式

8七2 「歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す」

正答率66.4% (全国と17P差)、短答式

古典の学習では、比喩などの表現技法に着目しながら、内容を大まかに捉える必要がある。その上で、自己の体験と結びつけて情景を想像したり、解説した文章を読んだりするなどの学習活動が必要である。また、伝統的な言語文化に親しむために、文語で書かれた唱歌や童謡などを改めて取り上げることも必要である。

【中学校国語B 課題と考えられる問題】

① 図と文章の関係を捉える

1二 図が示す内容を説明したものとして適切なものを選択する。

正答率57.4% (全国と5P差)、選択式。

図や表を用いた説明的な文章を読む際には、文章の内容を適切にとらえ、図や表がどの部分と関連しているのかを確認する必要がある。その上で、図や表が用いられている意図を考えることが有効である。例としては、文章中の言葉を使って図や表が果たしている役割を説明したり、文章の中に図や表がある場合とない場合とを比較したりする学習活動が考えられる。また、図や表を用いた説明的な文章を書く際に、互いの図や表の用い方を批評し合うような学習活動も有効である。

② 文章の内容について根拠を明確にして自分の考えを書く

2三 文章を読んで感じたこと考えたことを条件に即して具体的に書く。

正答率63.1%、(全国と3P差)、無解答率17.2%、記述式。

このタイプの記述式の設問には、引き続き課題が残る。文章のどこからそのように考えたのかなどについて、より分かりやすい説明をするために、本文を引用するなどして、自分の考えが相手によりよく伝わるように書く学習活動等を重視したい。

③ 漢字の特徴を捉えて自分の考えを具体的に書く

3三 間違えやすい漢字を学習する際の注意点やコツを漢字の特徴を取り上げて説明する。

正答率59.4% (全国と5P差)、記述式。

文章の内容を捉え自分の考えを適切に記述するといった設問には、上の設問と同様に引き続き課題がある。また、漢字の学習では、字形が似ていたり、読みが同じであったりして、間違えやすい漢字を取り上げて、文脈に即して読んだり書いたりすることに加え、漢字の特徴について説明する活動が重要である。

【中学校数学A 課題と考えられる問題】

- ① 正・負の数の理解
1 (4) 正答率 53.4% (全国と11P差)、短答式
- ② 文字式の意味理解
2 (2) 正答率 56.7% (全国と10P差)、選択式
- ③ 文字式での表現
2 (3) 正答率 20.7% (全国と12P差)、短答式
- ④ 空間における直線関係の理解
5 (1) 正答率 42.1% (全国と15P差)、選択式
- ⑤ 多角形の外角の意味理解
6 (2) 正答率 44.8% (全国と11P差)、短答式
- ⑥ 関数の意味理解
9 正答率 13.5% (全国と0P差)、選択式
- ⑦ 反比例のグラフ
10 (4) 正答率 55.9% (全国と15P差)、短答式
- ⑧ ヒストグラムから相対度数を求める
14 (2) 正答率 18.2% (全国と8P差)、選択式
- ⑨ 確率の意味理解
15 (1) 正答率 18.2% (全国と15P差)、選択式

学習指導要領に示された基本的な内容の中でも、正の数・負の数の計算、文字式の計算、方程式の解法等の技能については、全国との差はほとんど無い状況の一方で、上記の設問は、全国との差が10ポイント以上となっている。これらの多くは、単に、数式を処理するのではなく、図形や事象などの事例対象について正しい把握をしたうえで、正答へ導くといった知識・理解の観点の中でも、「意味理解」の力を問うている設問が多い。今後の授業、学習の中で、意味理解の力の伸長を意識した取り組みが求められる。

【中学校数学B 課題と考えられる問題】

- ① 事象を式の意味に即して解釈し処理 条件から数値を求める。
[1] (2) 正答率20.9% (全国と11P差)、無回答率25.4%、短答式
- ② 事象を式の意味に即して解釈し結果を数学的に説明 条件から結果について文章記述する。
[1] (3) 正答率16.5% (全国と7P差)、記述式
- ③ 資料の傾向を捉え特徴を数学的に説明 ヒストグラムから特徴を文章記述する。
[5] (2) 正答率18.2% (全国と7P差)、無解答率52.0%、記述式
- ④ 問題場面における考察対象を的確に捉える 条件に合う三角形の基石の数を求める。
[6] (1) 正答率29.1% (全国と23P差)、短答式
- ⑤ 事象と式の対応を捉え事柄が成り立つ理由を説明 条件に合わせた式が成立する理由を文章記述する。
[6] (3) 正答率13.8% (全国と10P差)、無解答率55.7%、記述式

所与の事象を正確に捉え、必要に応じて、式化ができ、文による説明が書ける力は、学力の3要素のうち、思考力・判断力・表現力にあたり、数学科の評価観点では、「数学的な見方や考え方」に該当する。4年前の悉皆調査時から引き続き、この部分の定着には課題が残る。特に、記述式の設問の正答率は低い。数学的な活動を中心とした言語活動のいっそうの充実を図り、思考力や表現力を伸ばす必要がある。